

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市栗生児童館
2	指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3	指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》27,395人（前年度比 91.6%） 平成30年度 29,894人 平成29年度 29,495人 平成28年度 20,202人</p> <p>《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》 （ ）は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者に支払った費用 44,950千円（37,284千円） その他市が負担した費用 0千円（0千円） <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用料収入 0千円（0千円） その他収入 0千円（0千円）
6	利用者の声	<p>《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。</p>

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、学習タイムやランチタイム、集会の進行、遊び等、様々な活動を縦割りグループで行っており、年齢の異なる子ども達が一緒に活動する中で、高学年児童の意識が徐々に変化し、低学年児童を思いやる心が育まれている。新しく開設されたサテライト室で行っている高齢者と小学生の交流事業は、今年度2年目となり、地域と連携した新たな行事の開催へとつながっている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》

栗生児童館として3年目の今年度は、落合栗生地域の方々との連携が飛躍的に深まった年と言えます。児童クラブは、登録児童の増加に伴い、言葉遣いや集団生活のルールに課題があり、要支援児童の個別対応も必要なことから、挨拶や自分の思いや考えを表現するように指導しております。また、昨年度よりサテライトを開設いたしました集会所を使用している老人クラブ“くりさんクラブ”との世代間交流は、グラウンドゴルフに加えてお茶会、お正月あそびを実施いたしました。特に、お正月あそびは、子ども会育成会や地域の方々を巻き込んで総勢26名のご協力を頂き、子どもたちが、地域の中で育っていることを実感できる一日となりました。また、普段、自宅から遠くて児童館を利用できない子どもたちに出前での事業を展開する“デリバリー児童館”は、ブランづくりと忍者スライムを行い、大好評でした。

近隣の広瀬マイスクール児童館・落合市民センターとの連携事業『親子であそぼ！』は、運動遊びや制作等、年3回の多様なプログラムを実施しました。落合地区へのデリバリー児童館のような役割も担っています。

地域の子育て支援団体との連携は、「栗っこネットワーク」の活動への参画です。特に、「栗っこふれあいまつり」では、町内会長や児童館のクイズコーナー、ジャグリングの後には、焼き芋をほお張れる企画で、心も体も温かくなりました。

宮城地区内の財団8児童館が、上愛子・大倉・作並小学校へ出向いて遊びの提供を行う移動児童館は、令和2年度は、上愛子小学校に統廃合されるので、学校のニーズも勘案しながら、遊びの提供を行い、地域の子どもの健全育成を図ってまいります。

卓球やバスケットボールが好評で、中高生のリピーターが増えました。乳幼児親子には、遊戯室を活用して、2～3歳児の運動遊びの充実を図る事業展開を計画してまいります。

《施設設置者（仙台市）による評価》

総合評価

子育て家庭支援事業では、参加者の声を踏まえて実施方法の見直しを図り、登録制幼児クラブの代わりに自由参加の「年齢別行事」を充実させるなど、試行錯誤しながら事業の充実を努めている。クッキングやお楽しみ会など、今年度特に参加者が多かったプログラム以外についても、参加者のニーズを踏まえた上で内容の創意工夫に努め、更なる事業の充実を期待したい。行事の広報についても、昨年度に引き続き、児童館だよりでの案内に加えて、3ヵ月ごとに乳幼児親子向け行事のみを掲載したチラシを作成するなど、情報をわかりやすく伝えることを心掛けている。児童館の移転改築に伴い、落合地区から栗生地区に移転したことから、落合地区の子ども達に向けた「親子であそぼ」や「デリバリー児童館」を実施するなど、出前児童館や移動児童館にも積極的に取り組んでおり、小学校区全体を意識した子育て家庭支援を行っている点が評価できる。

地域交流推進事業では、市民センターや社会福祉協議会、栗っこネットワーク、宮城コミュニケーション広場、保健福祉センター等、地域の子育て支援団体と連携を深めながら、事業の充実に取り組んでいる。集会所にサテライト室を開設したことをきっかけに、町内会や老人クラブの方々との交流が深まり、「くりさんとあそぼ」と称した行事を年3回開催したほか、「お正月遊び」では地域の方々が講師として参加し、地域が一体となった行事に発展するなど、地域交流や世代間交流の広がりにつながっている。

S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課